

2026年度（令和8年度） 学校経営方針

福山市立神辺中学校
2026年（令和8年）4月1日

共に学び、共に支えながら、未来を切り開き、地域・学校に貢献する生徒

できる！わかる！主体的に学ぶ生徒の育成～伸びの実感を全生徒に～

- 義務教育9年間を見通した上で「何を学ぶのか」だけでなく「何ができるようになるのか」を明確にした授業改善を行う
- 学力定着のための方策を明確にし、できる喜び・伸びの実感を味わえる授業づくりを行う
- 問われていることを理解する力を育成する

- ➡校区合同で教材研究・授業参観，交流をする中で，授業改善を図る
- ➡正答率40%未満の生徒の減少

「よりよく生きる力の育成 ～主体・自律・貢献～」(「奉仕」「信頼」を「貢献」に)

- 「主体」…学習者主体の学び
 - ・主体的な学び(「学びたい」「知りたい」につながる授業改善を行う)
 - ・互いに学び合う中で、基礎学力の定着を図る
 - ・粘り強く挑戦することができる生徒を育成する
 - ・特別支援教育の視点に立った教育を進める
- 「自律」…自己指導能力の育成
 - ～時を守り 場を清め 礼を尽くす～
 - ・時を守り(時間を守るだけでなく、どういう時なのか考えて行動できる)
 - ・場を清め(環境整備だけでなく、どういう場なのか考えて行動できる)
 - ・礼をつくす(自ら挨拶、自らの心得、相手意識をもった行動ができる)
 - ・集団の中で安全・安心に過ごせる基盤をつくる
- 「貢献」…奉仕の精神を育て、信頼される学校づくりを推進する
 - ・地域について学び、地域を大切に思う生徒を育成する
 - ・SDGsの学習を広げ、校内外で積極的に活動する生徒を育成する
 - ・ボランティア活動へ積極的に参加する生徒を育成する
 - ・大人も生徒も「時を守り 場を清め 礼を尽くす」

(1) 授業・研究の充実

①校内研修の充実…校内授業研究(みるみるみせる)、校区研修、教科指導研修、特別支援に関する研修、分掌部会、教科部会等の充実

②基礎学力向上に向けた取組…日々の授業研究

(生徒が考える時間・生徒同士で解決する時間を必ず設ける)

(教え込むのではなく学び方を学ぶ機会を設ける)

(「学びたい!」と生徒の心に火をつける)

「全国学力・学習状況調査」に対応できる学力を付ける

→実際に解いてみる

→解けるようになるために必要な力を分析し、諦めず、根気強く、思い切って授業改善を行う

R7 国語、数学、理科(CBT)

R8 国語、数学、英語(CBT)

R9 国語(CBT)、数学(CBT)

③「全国学力・学習状況調査」「福山市標準学力調査」「英検 IBA」の結果分析→授業改善…結果分析取組シートの活用、「授業づくり ポートフォリオ」の作成 (本年度は4教科)

④授業における Chromebook の効果的な活用

…学習アプリ(東書データベース、ロイロノート)や FigJam

⑤学習規律の徹底(チャイム席、あいさつ、忘れ物、私語)→「こだわり」のある指導を

⑥家庭学習(宿題)の定着…適切な課題の提示

課題を評価に入れるのなら、「何の観点で」「内容がどうなっていたら」「どのような基準で」評価するのかを明確に

【復習】何が理解できていればいいのか、的を絞った課題提示

購入したワークブック等の日ごろからの有効活用

【予習】学力を上げるための方策として重点的に行う

「次の日の授業で何を学ぶのか」「新しく学ぶことのうち、分かりにくいのは何か」ならば「何を前もって見ておく必要があるのか」

イメージを持って授業に臨む

⑦各種研修への積極的に参加し、研修内容を授業に生かす

【福山市一斉研修】

教科別…各教科ごと(年5回) ※通常学級の授業を担当する特支担は、原則、教科部会に出席する

領域別…10の領域のうちのいずれかに属す(7月28日に行われる研修に参加)

【総合、道徳、特活、進路、生指、特支、視聴覚、学図、健安、人権】

(2) より良い学校生活

①安心して過ごせる集団づくり

○まずは学級…心を育てるために何を大切にするのか 生徒同士をどうつなげるのか
いじめの未然防止

○学活の充実…生徒の自治能力やコミュニケーション能力を高めるための活動

○道徳教育の充実…心を育てるために、生徒の心を揺さぶる、葛藤させる発問の工夫
「人権作文コンクールへ」への出展など

○縦割り集団で…リーダーの育成

感動や達成感のある行事の実施から学級集団づくりの充実

②読書活動の推進

○学校図書館の学習センター機能としての積極的な活用

○朝読書の全校実施

(3) 生徒による主体的な活動（授業で、委員会で、部活動で、掃除で、給食で、HRで）

①行事を活かす

○リーダーの育成…縦割り集団による感動や達成感のある行事の実施

②委員会活動を活かす

○「時を守り、場を清め、礼を尽くす」→委員会との連携

○SDGsの取組

○月別重点取り組みの明確化と検証

○学級の自治的な活動に繋げる取組

○ボランティア活動の推進（ばら花壇の整備、校内外の清掃活動、SDGs等）

○生活習慣改善の取組

(4) 生徒の現状分析と早期対応（生徒指導担当者会、きらり委員会、学年会等）

①遅刻「0」…特別な事情を除き、遅刻を当たり前にしない「時を守る」

遅刻が続く生徒への早期の対応（寝坊、怠惰、学校に行きたくないなど
原因の把握）

②新規不登校生徒「0」…特別な事情を除き、欠席が2日続けば、本人と面談

家庭の協力が必要なときは保護者と連携

（しつこ過ぎず、でも淡白にならない）

③多様な学びの場となる学校図書館の利用…学校図書館運営委員会、生徒会図書委員会

④「ほっとルーム」を起点とした個別最適な学びの探究

⑤生徒指導上の諸問題の減少…早期対応・未然防止・おかしいと思っていたことが当たり

前の感覚になる前に行動を起こす

(5) 特別支援教育の視点に立った教育の推進

①個に応じた指導を行うにあたり、その程度に応じて、適切な手段で支援を行う

環境面…不必要な刺激を視野に入れないために、教室前側の掲示物は、最小限にする
授業の準備ができていない生徒に具体的に声をかけるなどの手立てを考える
整理が苦手な生徒にファイルや整理BOXを用意するなどの手立てを考える

授業面…学習課題（めあて）を黒板に提示する

学習状況に応じて、「聞く」、「書く」などの活動を使い分ける

(6) キャリア教育の推進

①自他の良さを認め合いながら、未来を切り開き、地域・社会に貢献する生徒の育成

②「基礎的・汎用的能力」の育成

「基礎的・汎用的能力」は「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」

「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の四つの能力によって構成される

どんな仕事に就いたとしても、自立して生きていくために必要な力

(2011年中央教育審議会(答申))より

③3年間を通して特に身に付けさせたい力

学びに向かう力

コミュニケーション力

課題設定・解決力

④進路指導主事を中心とした推進体制

⑤学級活動・ホームルームを「要」とする

⑥『のびーた』(キャリア・ログ)を活用する

⑦総合的な学習の時間の充実

「地域調べ」「職業調べ」「職場体験」「SDGs」「上級学校調べ」等、3年間を見通したカリキュラムを作成し、1年生から系統的に学ぶ(そのための土台作り)

(7) 保護者・地域と共に行う学校づくり

①コミュニティ・スクールの活用(学習面・生徒指導面でのサポート依頼)

②通信、便り等の定期的な発信・HPの活用

③事案に対する迅速な対応…報告・連絡・相談体制の充実 ※生徒指導後は必ず家庭連絡を!

④地域貢献活動の充実…ボランティア活動(地域清掃、かんスト等)

⑤登下校の安全確保…自転車通学生のマナー改善(ヘルメット着用、1列走行、左側通行)

⑥服務規律の確保…危機管理・安全確保・事故防止・不祥事防止

定期的な服務研修の実施(担当を決めて実施)

⑦地域と連携したSDGs活動…地域人材を積極的に活用

商工会青年部や交流館等との連携

総合的な学習、神辺ストリートフェスティバル等で

「菅茶山ポエム絵画展」への出展

⑧ばら花壇の整備(月1~2回 ばら会及び保護者と)

⑨防災減災教育の推進

(8) 信頼される教職員

①不祥事ゼロ(服務研修の定期実施、温かい職場環境づくり)

②教職員の元気(時間外勤務時間の減少)

(9) 業務改善

①タブレットを活用した業務改善(ペーパーレス化)

②見通しを持ち、メリハリをつけた業務遂行

③週1回の一斉退校日の確実な実施

④時間外勤務 月45時間以内100%実施をめざす